

講義科目 : 行政学 (69・68期生)	単位数 : 4
担当 : 川上 哲	学習形態 : 選択科目

講義の内容・方法および到達目標

本講義では主に日本の政治・行政制度の仕組みを解説していく。その際、単に現在の制度がどのような仕組みになっているのかを説明するだけではなく、歴史的にどのような過程を経て現在の制度が形成されてきたのかを重視しながら授業を進めていく。

本講義の目標は受講生が現在の政治・行政制度に対する理解を深め、主権者として地域社会を担っていく基礎的な素養を身に付けることである。また公務員を目指す学生が政治や行政に関する基本的な知識を習得することも目標とする。

授業計画

第1回	導入－講義概要及び評価方法	第16回	国家公務員論③退職
第2回	行政学の理論①行政学の誕生	第17回	国家予算の編成過程
第3回	行政学の理論②行政学の歩み	第18回	中央地方関係論①理論
第4回	行政学の理論③官僚制論	第19回	中央地方関係論②現状
第5回	戦後政治と行政①占領改革	第20回	地方自治体の執行機関
第6回	戦後政治と行政②高度成長時代	第21回	地方自治体の立法機関
第7回	戦後政治と行政③構造改革時代	第22回	地方公務員論
第8回	議員内閣制と大統領制	第23回	大都市行政論①指定都市
第9回	内閣を支える組織	第24回	大都市行政論②都制
第10回	中央省庁の仕組み①省庁	第25回	行政改革①理論
第11回	中央省庁の仕組み②審議会等	第26回	行政改革②現状
第12回	行政ネットワーク論①特殊法人	第27回	福祉国家論①理論
第13回	行政ネットワーク論②業界団体	第28回	福祉国家論②現状
第14回	国家公務員論①採用	第29回	戦後日本の国家と社会①企業社会論
第15回	国家公務員論②昇任	第30回	戦後日本の国家・社会②構造改革論

教材・テキスト・参考文献等

特定のテキストは使用しない。レジメ・資料を使用して授業を進める。参考文献は授業の際に随時紹介する。高等学校の政治・経済、世界史（近代以降）、日本史（近代以降、特に戦後史）の教科書などを授業の前に復習しておくことと理解がより深まるのでお勧めしておく。

成績評価方法

出席と小課題及びレポートによって評価を行う。評価割合は出席点30%、小課題10%、レポート60%である。小課題は全体を通じて5回行い、授業時間の最後10分ほどで書いてもらう。なお特段の理由なく授業を1/3を超えて欠席した場合には単位を与えないので注意すること。

その他

日々、報道に接するよう心がけること。また疑問点は放置せず、その都度質問すること。また本講義とあわせて、憲法や行政法などの履修を勧めたい。